

大泉学園中学校・大泉学園小学校・大泉学園緑小学校

中学校区の特徴

- ・小中一貫教育取組プログラムの柱に沿った3つの分科会による小中学校の教員の連携
- ・児童の中学校訪問、授業体験（出前授業）、部活動見学と体験

目指す15歳の姿

- ・基礎的な学力を身に付け、思いを適切な言葉で伝える生徒
- ・周りと協力しながら粘り強く物事に取り組み、自信をもって進路を開拓する生徒
- ・基礎的な体力を身に付け、自らの健康と安全について考え、行動する生徒

1 目指す15歳の姿の具現化に向けた取組

本校区では、「目指す15歳の姿」を知・徳・体の3つの要素で構成している。今年度から、本校区の課題となっている「学力向上」「キャリア教育」「学校生活の充実」を各要素の研究の柱とし、この3つの分科会で研究を行うこととした。

(1) 学力向上について

本分科会では、各校、学年ごとの実態や課題を出し合うことから話し合いを進め、どの学年からも「自分の思いを発信する力」「自分の考えに自信をもって、他者に伝える力」が挙がり、身に付けさせたい力として共通理解を図ることができた。学力向上分科会の小中9年間を貫くキーワードを「伝える力」とし、その力を育てるための手立てを学年ごとに話し合い、その結果を系統立てて「小中一貫教育取組プログラム」にまとめていった。今年度、話し合われた主な事柄は、「互いの意見を聞き合う指導」「話し合いの経験を増やし、自分の考えをもたせる指導」「言える、聞いてもらえる環境作り」「アサーションの定着」である。児童生徒の実態に合わせたこれらの取組を通して、「伝える力」を育てていく。

(2) キャリア教育について

本校区のキャリア教育に関する児童生徒の実態を共有する中で、粘り強く物事に取り組むことや自信をもって物事に取り組むことが共通の課題として浮き彫りになった。その原因は、コロナ禍における行動制限等で多様な経験が不足していること、自分自身のよさや強みに気付いていないことなどが挙げられた。

キャリア教育分科会では、小中9年間を貫くキーワードを「自己理解」と設定した。今年度の分科会ではキーワードに沿って、各発達段階で必要だと想定される自己理解の力や、それらの力を育成するためにキャリア教育において考えられる活動や取組について、系統立てて「小中一貫教育取組プログラム」にまとめていくことにした。日々の授業や生活指導の中で、プログラムにまとめた「育成したい力」を念頭に置き、各校・各学年で教科や実態に応じた様々な体験活動を取り入れながら実践していく。

(3) 学校生活の充実について

本校区において、各校の児童・生徒の学校生活実態を共有していくことにした。その中で発達段階に応じた課題を今後のテーマにすることを念頭に話し合った。小中 9 年間で「学校生活の充実」という大きなテーマから重要と思われるキーワードを「生活習慣」とし、実践をしていくことにした。

今後、各校で生活習慣を身に付けさせるための実践していき、本分科会 2 月に各校の学校生活の充実にむけた実践内容について協議を行う。

2 今年度の取組日程

日程	取組内容
6 月 16 日 (木)	第一回校区别協議会
8 月 29 日 (月)	小中一貫教育夏季合同研修会および分科会 講演「主体的・対話的で深い学びをつくる授業～ICTの活用を通して～」 講師 創価大学准教授 上山伸幸 先生
10 月 7 日 (金)～12 日 (水)	中学校部活動体験・見学会
10 月 25 日 (木)	第二回校区别協議会
10 月 28 日 (金)	小学生中学校訪問
10 月 31 日(月)、11 月 1 日(火)	中学校教員による出前授業
2 月	各分科会による今年度のまとめ



夏季合同研修会



中学校訪問



出前授業 (数学)

3 今年度の成果と今後の方向性

従来の教科ごとの 11 の分科会ではなく、新たな試みとして研究の柱に沿った 3 つの分科会で校区别協議会を行った。小中一貫教育クリエイター主導で協議を行い、各校・各学年の児童・生徒の実態を共有して有効な手立てについて協議することができた。この協議により小中学校間の実態や課題についてより深めることができた。児童・生徒の実態に即した小中一貫教育プログラムを作成し、実践し始めている。また、学力・進路・生活に関する「目指す 15 歳の姿アンケート」を中学生向けに実施し、今後の実践内容に生かせるようにしていく。児童・生徒の変容を測るためにアンケートを今後も実施する予定である。



分科会での協議

“あなたが目指す15歳の姿” ↓1つに○をしてください

学力・進路・学校生活

— 年 組氏名 —

あなたが目指す15歳の姿

理由